

## 北海道民放クラブだよ

### 医療老人施設で紙芝居

長谷川一郎(HTB)

平成29年1月14日午後、連日の寒波情報と大雪警報の出る中、民放クラブ紙芝居一座は有料医療老人施設「メディカルホーム・ボンセジュール山鼻」を訪問しました。

ゆつたりとした食堂兼ホールに、26名の入居の方を迎えての公演でした。

今回も、常本(HBC)さんと読み聞かせグループ「SOULLA」の出光さん、バイオリンの檜垣さん水谷さん姉妹の出演です。外は厳寒、でもホールには薄日がこぼれていました。



ヴァイオリン演奏付きの紙芝居

出し物は酉年にちなんで「とりのみじっちゃん」、バイオリンとのコラボでおなじみになった「じゅげむ」、パーシアター「おじいさんのコート」。

そして会場の皆さんと懐かしの歌の合唱。恒例の和田会長の挨拶、時々交じるジョークに会場は心もほぐれ、まずははじまり。



一幕目の「とりのみじっちゃん」

一幕目は「とりのみじっちゃん」、新年早々から「おなら」の話、仲の良い正直な老夫婦のおじいさんは小鳥たちと分け合った食べ物で良い香りのする「おなら」を殿様の前で披露し、殿様からご褒美を頂く。その話を聞いた欲深く意地

汚い老夫婦のおじいさんはサツマイモを食べ過ぎ、臭い「おなら」を殿様の前で披露して、お城から追い出された話。いつの世も清く正しく行きたいものです。

二幕目はパーシアター「おじいさんのコート」背丈ほどもある大きな紙に描かれたおしやれなコート。大切に、使い古されて最後は小さなボタンに、そのボタンも使い古されて残ったものは「おじいさんのコート」の物語だけ、お話は何時まででもなくなりませんね。

大切に、使い古されて最後は小さなボタンに、そのボタンも使い古されて残ったものは「おじいさんのコート」の物語だけ、お話は何時まででもなくなりませんね。



会場のお年寄りたちは大喜び

三幕目はおなじみ「じゅげむ」子供の幸せ望んで付けた名前が「じゅげむ」余りに長すぎて、こ

の名を呼ぶのに時間がかかりすぎて、争いごともノーサイド。

会場には「じゅげむ」を唱える低い大きな声が響き渡りました。

お別れは懐かしのメドレーで、『たき火』『雪』『冬景色』、そして坂本九ちゃん『上を向いて歩こう』『見上げてごらん夜の星を』をホールにいる皆さん全員で合唱し、この日の公演を終えました。

### 「川柳会」発足へ

文化的な会として、北海道民放くらぶにも「川柳会」が今年4月から発足する。

会長は、学生時代から川柳を始めていたという鳥羽さん(HBC)。関東地区の川柳誌に作品を投稿するなど活躍している。

現在、会員募集中で俳句と同じように2ヶ月に一回集まって、品評会を開く。

日本民放くらぶの全国版会報も川柳を掲載する企画があるので、シニアライフの活躍の場が広がると期待される。